

東久留米市立大門中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	どうすれば主体的な学びになるのかが理解しきれていないとともに、自分の行動を具体的に振り返ることが苦手である。	自分の考えがどのように変わったのかを書く、まとめ作文を行い、自分の知識の変化を具体的に書く力の定着を図る。また、視覚的に達成度が分かる工夫もしてまとめ作文につなげたい。	<ul style="list-style-type: none"> 国語科通信などを通して粘り強い取り組み方や学習の調整の仕方の良い例を紹介して、主体的に取り組む方法を教えていく。全ての観点のC評価の人数を学年で1桁にする。
社会	<p>基礎的事項の習熟に課題がある生徒がいるとともに、知識・理解を応用する力に課題がある。</p> <p>都道府県の位置を正確に理解している生徒と理解できていない生徒の差が大きく見られる。</p>	<p>ICT機器（モニター・実物投影機・DVD）などの視覚による教材を使用と自作の学習プリントを活用することで、分かりやすく、興味を引くような授業実践を行うとともに、自主学習を奨励し、点検をする。</p> <p>地図帳を活用して、都道府県の位置を調べさせる活動を多く取り入れたり「都道府県調べ」を夏休みの課題にして提出させるとともに廊下等に掲示したりして、相互に見学させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> テストでの知識・理解の問題の正答率および応用する力に課題がある生徒の観点の評価をそれぞれ5%以上伸ばす。 「都道府県テスト」を2学期当初と学期末の2回実施し、80%以上の正答率を学年の生徒全体の75%以上にする。
数学	<p>四則演算、方程式の計算など、基本的な技能はあるものの、文章から数量関係を読み取り、立式することが苦手な生徒が多い。</p> <p>1年生での、関数分野の問題を苦手としている生徒が多い。特に、グラフや文章から比例、反比例の式をつくる問題の正答率が低い。</p>	<p>文章問題で数量関係をイメージしやすくするため、図や表などを用いて解くことの指導を徹底する。解説の際に数量関係を確認する。</p> <p>1次関数の授業で、比例、反比例の復習を意識しながら、授業を進める。毎時間行っている小テストで反復練習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査における「思考・判断・表現」についての問題の正答率を50%以上にする。 定期テストの中で関数の基本的な問題についての正答率を80%以上にする。
理科	実験結果に基づいて考察を進め、自分の言葉で表現することが苦手な生徒がいる。	班での話し合い活動を増やし、発表用ホワイトボードを活用し、考えの共有・まとめ方を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 実験レポートにおいて、考察を自分の言葉でまとめられるようにする。（B評価を80%にする）
音楽	鑑賞で、文章の記述が苦手な生徒がいる。音楽的センスの良い生徒は進度が速いが、遅れぎみになる生徒もいる。	感想文の良いものを、見本として読み上げる。理解すべき学習内容、記述の到達点を明確に指示する。	<ul style="list-style-type: none"> 感想文の評価について80%以上の生徒が、到達点のB以上になるよう指導する。
美術	見る力、感じる力、それを表現する力を更に伸ばす必要がある。	鑑賞レポート（西洋、日本画）を通して見る目を養い、パネル時計を通して調和を学び、モザイク画で構成を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 作品を提出させる。主体的に学習に取り組む態度の評価が以前より上がる生徒を5%以上増やす。

東久留米市立大門中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
保健体育	(男子) 基本的な授業に対する意欲は十分であり、個々の取り組みも活発に行う。	運動のポイントを分かりやすく提示し、自ら考え、仲間と教え合い、ポイントを指示・共有しながら習得できる授業づくりを目指す。	・ 授業評価ではポイントを捉える生徒が80%以上になる。
	(女子) 手本の動きや友達の動きを見て課題を克服できるようにする。	良いプレイや工夫した運動を紹介し、良かった点やポイントとなる点を見取る力を共有する。	・ 学習カードに仲間の良かった動きを記載する欄に適切に記入できる率を90%以上とする。
技術	全体的には、授業に対して興味をもち、積極的に取り組む生徒が多い。	作品完成までの努力や工夫した点などの発表をさせることで発信力を高め、周りからの評価を受けることで改善策を考えさせる。そのためのICT機器（タブレット端末など）の効果的な活用を進める。	・ 主体的に学ぶ内容に重点を置き、ワークシート・発表による点検で、A評価が60%以上になるようにする。
家庭	新型コロナウイルス感染症により、食に対する実習が困難な状態にあるため、安全に取り組める方法を模索する。	自分自身の食生活を振り返り、食の表示についてやバランスの良い食生活を考え、その問題点や改善点を考慮し改善できることを目指す。	・ 主体的に学ぶ内容に重点を置き、平面計画を立てる。A評価の生徒が50%以上になることを目指す。
外国語	授業内で自分の取り組みや目標に対する到達度について振り返る場面を設定しているが、そこで見つけた自分の課題を解決するために粘り強く取り組もうとしている生徒は少ない。	より具体的な学習方法を提案し、目標を達成できるよう積極的に支援する。	・ 授業後に復習を行う生徒が90%以上になるようにする。
科特別の道徳教	発問に対して真剣に考えなかったり、考えたことがあっても表現しようとしなかったりする生徒がいる。	他人事にせず、主体的に自分の考えを深められるような授業の展開を考える。特に、導入で生徒の興味・関心をひくことができるようにする。	・ 友達の意見を聞き、自分の考えを深めることができたか。（授業観察、ワークシートからの見取り）
間総合的な学習の時	職業適性検査や進路学習ノートの作成を通して、生徒自身で自己理解を深めることができている。さらに構成的グループエンカウンターの手法を取り入れ、効果的に進路学習を進めることができるよう工夫したい。	進路学習のまとめや上級学校調べにおいて、3年生に進級したときのイメージをもたせ、自らの進路選択をより具体的に考えさせる。東京都内校外学習において、それぞれが役割を分担して、新たな東京の発見や調べ学習にしっかりと取り組ませる。	・ 上級学校調べや東京都内校外学習において、全員が調べた内容を発表原稿・発表用紙として作成する。その内容を発表・掲示する。